# 成長

編集＜総務＞
発行人 赤江弘之
発行所 岡山市東区
西大寺中野 543-2
日本同盟基督教団
西大寺キリスト教会
電話(086) 943 - 7552

教会標語 ビジョンを新たに！与える教会となるために(ヨハネ17: 18)

## 「預言者の引き継ぎ」

牧師 佐野泰道

預言者エリシャは、エリヤから預言者の職務を引き継ぎました。その引き継ぎの直後に、驚くべき事件が起こります。「エリシャはそこからベテルへ上って行った。彼が道を上って行くと、この町から小さい子どもたちが出て来て、彼をからかって、『上って来い、はげ頭。上って来い、はげ頭』と言ったので、彼は振り向いて、彼らをにらみ、主の名によって彼らをのろった。すると、森の中から二頭の雌熊が出て来て、彼らのうち、四十二人の子どもをかき裂いた。」（第二列王二・二三－二四）

何ということでしょうか。私たちは、大きな衝撃と共に深い謎に包まれます。エリシャは、腹が立ったとはいえ、「主の名によって呪う」とは行き過ぎではなかったのか？神様はどうして、熊が子どもたちを殺すという残酷な事件をお許しになったのか・・・？いくつかの文献を調べてみると、事件の詳細がわかってきました。

・「小さな子どもたち」とは、物事を判別できる年齢の少年または青年を指していること。

・エリシャは、この時まだ若かったこと。この後、五十年間も預言者の働きを続けたことが記録されている。

・「上ってこい、はげ頭」という悪口には、「あなたはエリヤの後継者になれない」という意味が込められていた。つまり、この悪口はエリシャ個人に対するものではなく、預言者の使命に対してのものだった。

これらの情報を組み合わせると、この事件は、幼い子どもたちがエリシャをからかって起こったのではなく、青年たちが預言者とされたエリシャを拒否した結果、起こったことがわかります。彼らは、エリシャをお立てになった神様を拒む態度をとったのです。

私たちがここから学ぶべきことは、「主を恐れ敬う心がなければ、すべてを失う」ということです。

「主を恐れることは知識の初めである。」（箴言一・七）とあるように、神様を信じる根底にあるものは、神様を恐れ敬う心なのです。そして、その信仰が具体的に表れる一つが、神様がお立てになった人との関係においてです。実は、ここが信仰の難しいところです。自分では神様に従おうとしていても、神様がお立てになった人には従えないということが、しばしば起こるからです。

私はしばしば、神様がお立てになった人を批判しました。ある時には、キャンプの講師の話を心の中で批判しながら聞いていました。しかし、そのキャンプでたくさんの人が洗礼の決心をするのを見た時に、「ああ、やっぱり神様がお立てになった人なんだ」と批判していた自分の思いが砕かれました。また、ある場合には、牧師の判断に賛成できず不満がありましたが、不思議とその牧師の判断が最善になるように事が導かれました。その時にも「やっぱり、神様がお立てになった人だ」と、自分の誤りを示されました。神様は、数々の誤りの中で、私たちの高ぶった心を示し、また砕いてくださり、神様を恐れ敬う心を形造ってくださるのです。

私は、この教会におられる背筋がピッと伸びている信仰者から、多くを学びました。それらを一言にするならば、「神様を恐れること」と言えます。神様を恐れ敬う心は、砕かれた人たちの後ろ姿から教えられるのです。この点で、エリシャの事件が起こったベテルには、負の遺産がありました。ヤロブアム王の時代、この地に金の子牛が据えられ、誤った礼拝が行われていました。（第一列王十二・二八）もしかしたら、この事件に関わった人たちは、

※ 次ページへ

※

主を恐れない心を先代の人々から受け継いでしまっていたのかもしれません。

主を恐れ敬う心は、何にも勝る信仰の富であり、すべての祝福の土台です。この教会に与えられているすばらしい恵みを受け継ぎ、次の世代に遺しましょう。主を恐れる心の継承は、私たちが自分の人生をかけて取り組むべき使命なのです。